

小学校外国語科の授業づくりの充実に向けて

ー単元・授業構成シートを活用した授業実践を通してー

義務教育研修課 主任指導主事兼班長 高舘 裕児

主任指導主事 大瀨さおり

指導主事 松元 善徳

指導主事 萩野 奈幹

指導主事 吉竹 太志

キーワード：小学校外国語科、単元計画、言語活動

はじめに

中教審次期学習指導要領答申（平成 28 年）で、「中学年から「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱う学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視することが求められる。また、新たに㊦アルファベットの文字や単語などの認識、㊧日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、㊨語順の違い等の文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解等を促す指導を教科として行うために必要な時間を確保することが必要である。」¹⁾と提言された。

このことを踏まえ、平成 29 年 3 月告示の学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）において、外国語活動では「外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力」、中学校外国語科では「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成が求められている。そして、小学校高学年外国語科では「素地」を土台とした「基礎」を養うこととし、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、育成を目指す資質・能力を児童生徒が身に付けることができるよう工夫することを強く求めている。

そこで、令和元年度の研究において、次年度から全面実施される高学年外国語科（以下「外国語科」という。）の授業についての意識調査²⁾を行い、その結果の分析を基に課題を整理し、外国語科の授業づくりの一助とするための資料を作成した。

さらに、2 年目となる本年度は、令和元年度の研究で明らかとなった教員の「不安感」の大きな要因である「単元や授業を構想することについての理解」に焦点を当て、令和元年度の研究で作成した資料³⁾（以下「資料」という。）を活用した研究協力モニター（以下「モニター」という。）の授業実践を通して、その有用性や実用性を検証し、外国語科授業づくりの充実に役立てることができる「外国語科授業づくりリーフレット」（以下「リーフレット」という。）の作成に取り組むこととした。

1 研究の経緯

(1) 令和元年度の研究

令和元年度の研究では、当教育研修所が実施する年次研修対象者（初任・2 年次・3 年次・中堅の小学校教員）に令和 2 年度からの外国語科の授業を行うにあたっての意識調査を行った。この調査から、多くの教員が自身の英語力や、「児童に身に付けさせたい力を十分に描ききれないまま、1 時間の授業のねらいをどのように設定し、指導していけばいいのか」、「具体的にどのように学習活動を展開すればいいのか」といった指導力や専門性についても不安や課題を感じていることが分かった。これを受け、さらに実施した外国語科の授業づくりにおける課題調査⁴⁾によると、「教材分析に基づく授業づくり」や「目標に準拠した評価」を課

題としている割合が高かった。これについては、「授業の進め方や教材分析の仕方が分からない」、「授業に自信がないのに評価する自信がない」といった記述からも、児童に力を定着させるための教科指導として求められることに対する不安感を見取ることができた。また、活動時に「英語を話すことに抵抗がある」、「英語で臨機応変な対応ができない」という記述もあり、英語に苦手意識をもつ教員にとっては、英語を使って授業すること自体が難しいことが伺える。

これらの結果と分析から、本県の小学校教員が抱えている教科として授業を行うことについての課題を、「単元や授業を構想することについての理解」と授業を進めていくにあたっての「教員の英語力」と捉えた。これら2つの課題に対して、教員の不安を軽減させ、授業の質の向上につながる資料として「外国語活動・外国語科『4技能5領域』指導のポイント」(資料1)、「単元・授業構成シートの作成手順」(資料2)、「Small Talkの進め方」(資料3)、「Classroom English 40選!」(資料4)を作成した。

(2) 令和2年度の研究

令和元年度の研究を受け、令和2年度「(小) 外国語科授業力向上講座」では、資料⁵⁾の「単元・授業構成シート」と「Small Talkの進め方」を活用し、上記の研修講座受講後の受講者の気付きから、受講者の授業づくりにおける課題を具体的に把握することとした。また、モニターによる資料を活用した授業実践、そこで得られた有効な点や課題から、外国語科における授業づくりの視点を明らかにすることとした。さらにその視点を基に、学校現場で効果的に活用できるリーフレットとして完成させることを本年度の研究の目標とした。

2 「(小) 外国語科授業力向上講座」を通して見えてきたもの

(1) 「(小) 外国語科授業力向上講座」の研修内容

令和2年度「(小) 外国語科授業力向上講座」は、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する授業の在り方の理解」と「自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動を充実させる授業づくり」をねらいとして、鳴門教育大学大学院 佐藤美智子准教授による講義、県内教員による実践発表及び受講者を主体とした演習からなる内容で実施した。

講義では、児童に身に付けさせたい資質・能力及び授業づくりについて受講者の理解を深め、実践発表は、外国語科で位置づけられている言語活動の Small Talk について、その意図、方法について指導のイメージを掴み、授業での実践意欲につなげることができる内容とした。

講義と実践発表での学びや気付きを踏まえて、演習では、資料「単元・授業構成シート」(図2)「Small Talkの進め方」(資料3)を用いて、図3の流れに沿って実施した。なお、「単元を見通した授業づくり」では、受講者に単元・授業構成シートを作成する際に、「単元終末で目指す児童のイメージにつながる学習計画が組まれているか」「既習表現が活用できる機会を取り入れているか」の視点を助言し、学習内容の定着を図ることができる計画となるようにした。また、「Small Talkの演習・模擬授業」では、「児童に既習事項を使用させることができていたか」「教師は対話を続ける表現を使えていたか」の視点を与え、どのような英語表現で教師が児童とやり取りをするのか、自身の Small Talk のブラッシュアップにつなげる内容とした。

単元・授業構成シート		教科書	We Can!1	Unit	5	ページ	P.34～41	
(1) 単元計画								
	本時のねらい	児童に触れさせたい表現	児童の主な学習活動(※指導上の留意点)					
1	誰が早く走れるかなど、動物たちが競っている場面を手がかりに、できることの表現に出会わせる。	動物、動作。 I can run. Can you jump?	指導者が言う動詞を指す。 ペア活動(仲良く一競争一復讐)。1人が、どれだけの動物になり、他の児童が質問をして、どの動物になったかを当てる(グループ)。					
2								
3								
4								
5								
6								
7	I can book を使って、自分のことや学校の先生を紹介する。	This is ～。 She can run fast. She can't swim.	自分ができることを伝えたり、校内の先生にインタビューしたことを基に、先生の紹介をするを楽しむ。					
8	Kazuと Maria のやりとりについて簡単な断句や基本的な表現を模範しながら読む。	Do you like math? I like math very much. Maria can do math very well.	Kazuと Maria のやりとりを自分の学校生活の一場面と重ね合わせて読む。					
※太字はその時間に必ず読みたい表現								
(2) 各時間の目標として取り上げる領域(※該当する項目に○を記入します。本単元で評価する項目は●を記入)								
領域	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
L(聞くこと)	○	○						
S(話すこと)やり取り		○						
S(話すこと)発表							●	
R(読むこと)								
W(書くこと)								
(3) 単元の終末でめざす児童のイメージ								
I can book を使って、自分のことや学校の先生のことを紹介することができます。								
I am ～。 I can 動作カード。 I can't 動作カード。								
This is ～。 She can 動作カード。 She can't 動作カード。								
イラストや動作カードを用いて、身近な人を紹介することができる。								

図2 講座で使用した「単元・授業構成シート」

【単元を見通した授業づくり】

- 1 単元終末で目指す児童のイメージ(単元のゴール)を提示する。
- 2 目指す児童のイメージを踏まえて、①単元計画を作成(Small Talkを2回設定)し、②各時間の目標として取り上げる領域を記入する。
- 3 「目指す児童のイメージ」→②→①の順で見直し、目指す児童のイメージにつながる学習活動となるように修正する。

【Small Talk の模擬授業】

- 4 単元計画で位置付けた Small Talk を1つ取り上げ、やり取りの例を考える。
- 5 Small Talk の模擬授業を行う。
- 6 「児童に既習事項を使用させることができていたか」「教師は対話を続ける表現を使えていたか」の視点で各自の Small Talk のやり取りをブラッシュアップする。

図3 演習の流れ

(2) 受講者の研修評価シートから

受講者は研修後に、自身の研修での学びを振り返るための研修評価シートを記入するが、これまでの外国語活動や1学期に行った外国語科の授業経験を踏まえた記述がほとんどであった。研修講座後、研修評価シートに深い学びにつながったと思われるキーワードとその理由を3つ記入してもらった。キーワードとしては、「言語活動」「Small Talk」「単元計画」が多く挙げられていた。以下、それぞれの理由についての顕著な記述を挙げる。

「言語活動」をキーワードとした理由

- ・英語を使う必要性を子どもに感じさせることが大切だから。
- ・伝え合う力を育むことは、伝えたい気持ちを育むことから。子どもたちのそのやる気を引き出さなければならないのだと思った。他の教科でも共通の大切なこと。
- ・自分の気持ちを伝え合う活動をしてこそコミュニケーション能力が身に付くから。
- ・思考力、判断力、表現力等の力をつける1つの方法を知ることができた。
- ・外国語教育の授業設計の柱となると理解した。

「Small Talk」をキーワードとした理由

- ・今までやりたいと思いつつ、形式もノウハウも知らず行えていなかったため。
- ・今まで Small Talk についてはっきりとは知らなかったから。
- ・既習事項を使って児童自身が会話をすることで、「話すこと」「聞くこと」の力が身に付くから。
- ・授業の中で積極的に取り入れ、児童の伝えたい気持ちを高めていきたい。
- ・子どもたちが自ら話したいと思えるような授業づくりが必要だと改めて感じたから。

「単元計画」をキーワードとした理由

- ・単元終末での目指す児童の姿を考えて、そのためにこの時間に何を身に付けさせるか、計画立案に必要な考えだと思った。
- ・教材とねらいを整理しながら授業を組み立てるのに大切な考え方や手法を学べたから。
- ・どの学習でも同じであるが、児童がその学習を通してどんなことを身に付けることができるのかを見通して進めていくことの大切さを学べたから。

(3) 考察

外国語科は教科として学習内容の定着が求められるが、そのための指導方法に不安を感じている受講者が多かった。本研修講座における、「単元・授業構成シート」を活用した演習を通して、外国語科の授業づくりにおいても、「目の前の児童の実態に合わせた授業づくりは、他教科と同じである」や「毎時間の授業が、目指す児童のイメージに迫るつながりのあるものになっているか見通して指導することが大切である」等に改めて気付いた。さらに、言語活動の1つである Small Talk の模擬授業を通して、「英語を使うことの必要性を児童に感じさせること」や「児童が自ら話したいと思える授業づくり」、「自分の気持ちを伝え合う活動をしてこそコミュニケーション能力を身に付けることができる」等の気付きもあり、言語活動が外国語教育における授業づくりの中心になることの理解につながったと考える。

上記のように、研修講座では「単元・授業構成シート」が授業づくりにも有効であることが伺えた。しかしながら、実際の授業づくりにおける「単元・授業構成シート」の有用性について、学校現場の声に基づいた検証の必要性もあり、県内小学校4校の教員7名にモニターとして授業実践を依頼することとした。

3 モニターの実践を通して見えてきたもの

(1) モニターの授業実践から

モニターには、資料を用いて1単元分の授業実践を依頼し、「単元・授業構成シートの作成が授業づくりにも有効だと感じた点」、「単元・授業構成シートの作成を通して得られた授業づくりについての新たな発見や気付き」、「単元・授業構成シートの改善点」、「他の資料の実用性」について聞き取りを行った。なお、昨年度までに外国語活動の指導経験があり、本年度は学級担任として外国語科を指導している教員をモニターとして選出した。

ア A 小学校の授業実践から（6年生担任2名）

【単元・授業構成シートの作成が授業づくりにも有効だと感じた点】

- ・ゴールを見据えて、各時間に押さえることを記せたので、授業を組み立てやすかった。
- ・授業の前後の内容が可視化できたので、児童の実態に合わせて使用する表現や単語を入れ替えたりすることができた。
- ・次時に行う内容が分かっているので、本時にすべきことが明確になった。

【単元・授業構成シートの作成を通して得られた授業づくりについての新たな発見や気付き】

- ・導入、展開、終末があるのは他の教科と同じだと感じた。
- ・国語では、単元終末の姿をめざして、単元を貫いて言語活動をするが、外国語科も同じだと思った。
- ・授業構成にパターンができたので、子どもも授業に見通しがもて、安心して授業に取り組んでいる。

【単元・授業構成シートの改善点】

- ・他の授業もあるので、毎回このシートを書くのはしんどい。
- ・これ以上書くことが増えたり、細かくなったりするとしんどい。
- ・単元の終末で目指す児童のイメージの意味が最初は分からなかった

【資料 1、3、4 の実用性について】（○良かった点、●改善点）

○資料 4：子どもの発表に対して、ぱっと言いたい英語が出てこない（このことが一番不安）ので「ほめ言葉」「励まし言葉」は役立った。

イ B 小学校の授業実践から（6 年生担任 1 名）

【単元・授業構成シートの作成が授業づくりに有効だと感じた点】

- ・ゴールの姿を描くことで、各時間に何が必要なのかを整理することができた。
- ・毎時間の学習が、「ゴールの姿」に向かっていくつながりのあるものとなった。
- ・主な学習活動を可視化できたことで、既習事項を効果的に繰り返して学習させることができた。
- ・1 時間の授業づくりのパターンが見えてきた。
- ・必要な活動を厳選することができたので、子どもの言語活動の時間が増えた。

【単元・授業構成シートの作成を通して得られた授業づくりについての新たな発見や気づき】

- ・今までは単に教科書をこなす授業であったことに気付いた。
- ・単元のゴールを目指して 1 時間 1 時間積み上げていくところは国語と同じだと思った。
- ・今回は一つの単元で作成したが、すべての単元でこのシートを作成することで、長期的な視点で児童の力を付けることができると思う。
- ・単元において記録として残す評価の領域をピックアップしやすかった。

【単元・授業構成シートの改善点】

- ・これ以上書くことが増えたり、細くなったりするとしんどい。（シート作成に 3 時間かかった）

【資料 1、3、4 の実用性について】（○良かった点、●改善点）

○資料 1：単元・授業構成シートの「各時間の目標として取り上げる領域」のイメージをもつのに有用であった。

ウ C 小学校の授業実践から（6 年生担任 2 名）

【単元・授業構成シートの作成が授業づくりに有効だと感じた点】

- ・教材研究のポイントやその時間で指導するポイントがつかめるようになった。
- ・単元でどんな表現や単語を扱うのか、どんな表現が中心となるのかについて確認できた。
- ・子どもに付けさせたい力の共通理解が図れた。

【単元・授業構成シートの作成を通して得られた授業づくりについての新たな発見や気づき】

- ・身に付けさせたい力を明確にすることが大切だということを改めて実感できた。
- ・これまでは、「1 時間授業がもてばいい」「子どもが積極的にしていればいい」という思いもあったが、子どもに力を付けるという視点で授業づくりに取り組めるようになった。
- ・国語や算数などの他教科と同じような視点で授業づくりを考えるようになった。
- ・評価の視点が持てるようになり、各時間で何を見取るのかが明確になった。
- ・各領域の評価に○を記入することで、ぼんやりしていた評価が整理できた。

【単元・授業構成シートの改善点】

- ・よくできているが、毎回書くのはしんどい。この単元以降は、キーセンテンスや主な学習内容を付箋に書くようにした。ポイントを端的に絞ることで教師も何が大事なのか探そうとするし、教材研究の時間短縮にもつながると思う。

【資料 1、3、4 の実用性について】（○良かった点、●改善点）

- 何気ない会話でも瞬発力がないと授業のテンポが狂ってしまうやり取りがあると思うので、子どもの発話に反応できるような言葉が一覧であればと思った。（この瞬発力についても、経験を重ねて教師が力を付ける必要はあると思う）

エ D 小学校の授業実践から（5年生担任1名、6年生担任1名）

【単元・授業構成シートの作成が授業づくりに有効だと感じた点】

- ・付きたい力を教師がしっかりと考えて指導できる。
- ・シートに身に付けさせたい表現を明記するので、子どものつまづきを見取ることができ、それに応じて学習の流れを修正できるなど、組み立てがしやすい。
- ・単元を見通せることで、「この表現をここまで身に付けさせる」ということが明確になり、そのために必要な既習表現を意図的・計画的に仕組むことができた。その結果、子どもが思考、判断、表現する授業を行うことができた。

【単元・授業構成シートの作成を通して得られた授業づくりについての新たな発見や気づき】

- ・これまでは、1時間1時間を細切れで計画していたが、シート作成によって単元を見通して授業を組むということが初めてできた。
- ・これまでは、その単元のターゲットセンテンスがやり取りできればよいという認識であったが、これからは、既習事項も使いながら、より自然な会話ができるように授業を組み立てていかなければならない。
- ・外国語科になって知識ばかり教えている。
- ・外国語活動をしていた時のように、目的、場面、状況を設定した活動をしたいが、なかなかできていない。
- ・単元の中で、どこでどの領域について評価するのかということについて、見通しをもって計画を立てられた。

【単元・授業構成シートの改善点】

- ・毎回の作成はしんどい。
- ・めざす子どもの姿のイメージの書き方に少し戸惑ったが、単元の最終でこういうことを身に付けさせたい（覚えさせたい）ということを書いた。シートを作成していく際に、ここがきちんと書けていることが大事だと分かり、ここを目指さないといけないという意識づけになった。

【資料1、3、4の実用性について】（○良かった点、●改善点）

- Small Talkは難しい。ある程度、言うことを準備した上でやり取りすることはできるが、即興は難しい。
- 資料4をラミネートしてクラスルームイングリッシュを使おうとしているが、なかなか英語がすぐに出てこない。ただ、先生が英語を使おうと努力していると、子どもたちも何とか英語を使って伝えようと意識しているので、そこは大事なかなと思う。

(2) 考察

各モニターの意見は、以下の4つの視点で整理することができる。

①目指す児童の姿を描くことの大切さ

- ・ゴールの姿を描くことで、各時間に何が必要なのかを整理することができた。
- ・身に付けさせたい力を明確にすることが大切だということを改めて実感できた。
- ・付きたい力を教師がしっかりと考えて指導できる。

②言語活動の質と量

- ・外国語活動をしていた時のように、目的、場面、状況を設定した活動をしたいが、なかなかできていない。
- ・必要な既習表現を意図的・計画的に仕組むことができた。その結果、子どもが思考、判断、表現する授業を行うことができた。
- ・必要な活動を厳選することができたので、子どもの言語活動の時間が増えた。

③つながりのある学習活動

- ・授業の前後の内容が可視化できたので、児童の実態に合わせて使用する表現や単語を入れ替えたりすることができた。
- ・毎時間の学習が、「ゴールの姿」に向かっていくつながりのあるものとなった。
- ・主な学習活動を可視化できたことで、既習事項を効果的に繰り返して学習させることができた。

④評価への見通し

- ・単元において記録として残す評価の領域をピックアップしやすかった。
- ・評価の視点が持てるようになり、各時間で何を見取るのかが明確になった。
- ・単元の中で、どこでどの領域について評価するのかということについて、見通しをもって計画を立てられた。

モニターからは、評価の視点についての意見を得ることができた。これは、実際に授業を行ったからこそ見えてきた点であり、改善点と併せて検証し、外国語科授業づくりの充実に向けた令和2年度版「リーフレット」に反映させていくこととする。

4 外国語科における授業づくりの充実に向けて

(1) 研修講座及びモニターによる授業実践の考察から得られた視点について

研修講座の受講者による、「目の前の児童の実態に合わせた授業づくりは、他教科と同じである」や「毎時間の授業が、目指す児童のイメージに迫るつながりのあるものになっているか見通して指導することの大切さ」、「言語活動が外国語教育における授業づくりの中心である」の気付きに関しては、以下のモニターの意見とも共通しており、実際の授業における「単元・授業構成シート」の有用性を認めることができた。

- ・目指す児童の姿に向けて、単元を見通せることで、「この表現をここまで身に付けさせる」ということが明確になり、そのために必要な既習表現を取り上げるなど、言語活動を意図的・計画的に設定できる。
- ・児童の実態に応じて指導内容を精選することで、言語活動の時間が増える。
- ・各時間のねらいと学習活動を可視化することで児童のつまづき等を見取ることができ、実態に応じて学習の流れを修正することができる。

そして、研修講座及びモニターによる授業実践の考察から、外国語科における授業づくりの充実に向けて次の点が明らかとなった。

- ①単元終末での目指す児童の姿を明確にする。
- ②コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定した言語活動を授業の中心にする。
- ③目指す児童の姿に向けて、各時間の学習活動につながりをもたせる。
- ④単元で評価する領域を精選する。

また、改善につながる意見は、次のようにリーフレットに反映した。

改善につながる意見 1

「単元・授業構成シート」の作成が負担。



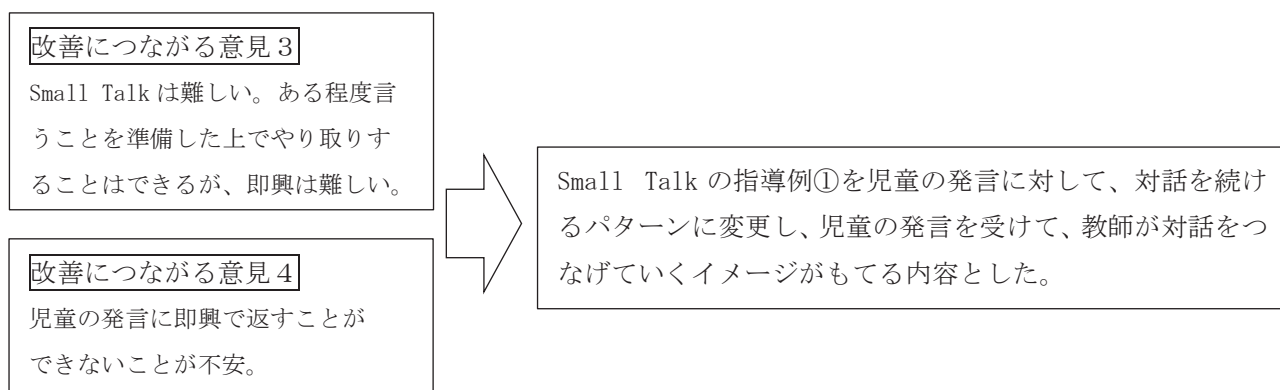
「単元・授業構成シートの作成手順」のQ&Aに、シート作成の目的を示し、手順①はポイントのみを端的に記せばよいことを記述した。

改善につながる意見 2

「目指す児童のイメージ」の書き方に戸惑った。



「単元・授業構成シートの作成手順」のQ&Aに、「目指す児童のイメージ」についての説明を示した。



(2) 令和2年度版「リーフレット」の活用と発信に向けて

資料の活用が、外国語科授業づくりの土台となる「単元や授業を構想することについての理解」における教員の不安感の軽減に効果があることがモニターの授業実践を通して確認できた。また、多くの教員が感じている「英語力」に対する不安感や課題についても、授業実践で得られた資料の改善の視点をもとに令和2年度版「リーフレット」に反映させた。

作成した令和2年度版「リーフレット」は、今後、当研修所で実施する選択研修講座や初任者研修、サポート研修等で活用する予定である。併せて、県内の小学校教員が活用しやすいように当研修所 Web サイトにアップロードし、周知を図りたい。

おわりに

今年度から教科としてスタートした外国語科に不安を感じている教員は多いが、小学校教員が大切にしている、目の前の児童の実態に合わせた授業づくりを行うことに変わりはない。また、教科化されたことで「評価」についての関心も高いが、新学習指導要領において求められる評価とは、言語活動への取組状況を観察しながら、4技能5領域において「既習表現の使用（知識・技能）」「表現内容の適切さ（思考力、判断力、表現力等）」「言語活動で表出された態度（主体的に学習に取り組む態度）」を見取ることである。すなわち、授業において言語活動は必須条件であり、言語活動を充実させることが教員の授業力向上につながるとともに、外国語科の目標である「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成」につながると考えられる。

今後は、作成した令和2年度版「リーフレット」の普及を進めていくとともに、より学校現場での授業づくりに即したものとなるように内容の充実を図っていきたい。

最後に、本研究の主旨に賛同し、快く御協力いただいた学校長をはじめモニターの皆様に心より謝意を表す。

注)

- 1) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」，2016，p. 198
- 2) 池内晃二・栄久視・松元善徳・田中義晃・吉竹太志，「小学校外国語科の授業づくりについて－小学校外国語科の充実に向けたリーフレットの作成－」『研究紀要第130集』，兵庫県立教育研修所，2020，pp. 15-16
- 3) 上掲書，pp. 21-25
- 4) 上掲書，pp. 16-17
- 5) 上掲書，pp. 23-24

<参考文献>

- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編，文部科学省，2017

- ・『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』，文部科学省，2017
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動』，国立教育政策研究所，2020

Let's Enjoy English

～外国語科の授業づくりを楽しもう！～

このリーフレットを活用することで次のことが理解できます！

□意図的・計画的な言語活動の設定

単元の流れや各時間の学習活動につながるのがある授業づくりが理解できます。

□児童に身に付けさせたい力の明確化

コミュニケーションを図る資質・能力を育成する授業づくりが理解できます。

授業づくりの参考となる活用資料！



「4技能5領域」指導のポイントが確認できます！

【No.1へ】



単元の流れを把握し、児童に身に付けさせたい力が整理できます！

【No.2-1,2-2,2-3へ】



授業中の指示・声かけのバリエーションが増えます！

【No.4へ】



Small Talkの進め方やコツが理解できます！

【No.3へ】



外国語活動・外国語科の「4技能5領域」指導のポイント

No.1

聞くこと		繰り返し英語を聞かせることが大切です。リスニング教材や ALT に加えて、担任の先生も英語を使いましょう。また、体を使って表現させると定着しやすいので、意識して学習活動を行いましょう。
手 順	①手立てを考える	理解可能な内容となるように（実物、絵、映像、ジェスチャー等）具体的な手立てを考えます。
	②見通しをもたせる	いきなり聞かせるのではなく、聞く内容について児童が推測したり自分と関連付けたりできるように、事前にその内容についての英語のやり取りを児童としておきます。
	③やり取りをする	聞き取った内容について、児童とやり取りをしたり、児童同士にやり取りさせたりすることで、再び児童が自分と結び付けて考えられるように工夫します。
内 容	○絵本の読み聞かせ	中学年での児童とやり取りをしながらの大量インプットには効果的です。一方的に読むのではなく、絵を見せながら、子どもたちが知っている表現を使い子どもとやり取りしながら読んでいきましょう。（子どもは日本語でも OK）
	○教科書のリスニング教材他	大量のインプットを意図する場合は、左記の教科書教材などのツールを必要に応じて活用することが考えられます。
	○歌・チャンツ	
話すこと（やり取り）		児童が正しく言えなくても、言い直しさせるのではなく、教師が正しい表現を使っている姿を示します。最初から完璧な文章で話すことを求めるのではなく、児童が間違った表現を教師が正しい表現にして返していくことが大切です。
手 順	①児童の考えを引き出す	言葉が出にくい場合は、“I like oranges.”と教師が例を示したり、“You like …”と児童が“…”の部分だけを言えはいいようにしたりする工夫が必要です。
	②表現を広げさせる	ペアなどで活動している際は、児童に使わせたい表現を聞き取り、活動の合間に、全体に紹介します。
	③みんなで考えさせる	ペアなどで活動している際、困っていることがあれば、どう言えはいいのかを全体に問い、解決策を考えることで深まります。
内 容	○やり取り	自分のことや自分と関連のあることについてのテーマ設定をし、新出表現だけでなく、既習事項を使った関連質問などをして、やり取りを続けられるよう指導します。
話すこと（発表）		最初に考えた発表内容が、読み返しや友達とのやり取りの活動を経て、深まるように指導します。また、学年を通して段階的に聞き手に伝わりやすいよう、相手意識を持って発表できるように指導しましょう。
手 順	①ゴールをイメージさせる	単元の初めにモデル文を示し、授業のゴールを子ども達にイメージさせることが大切です。
	②全体で交流させる	友達とやり取りをしたり、ペアで発表や質問したりする活動を繰り返す中で、工夫したことや気付いた点、友達のよかったところや参考になった点などを交流させます。
内 容	○質問タイム	いきなり発表させるのではなく、発表する内容について、聞いたり、友達とやり取りをしたり、ペアでの発表の後に質問タイムを設けるなど、単元終末の発表文の内容が深まるようにします。
読むこと		単語 1 つ 1 つを区切って読むというよりは、自然な英語のイントネーション（強弱や長短、高低）を意識させることが大切です。（CD やネイティブの発音をまねさせる）
手 順	①文字に触れさせる	音声を中心とした外国語活動の時から、絵カードには必ず文字を表記し、常に文字に触れられるようにします。
	②文字（単語など）と音の結び付け	文字（単語など）と音を結びつけさせるため、指で文字や単語を追いつつ聞いたり、声に出して読んだりします。
内 容	○読む	何度も聞いたり言ったりして親しみのある表現を読むようにします。また、それを目で追って読めるようにします。中学年で何度も読み聞かせてもらった内容について聞き慣れた絵本を、読む活動も効果的です。
書くこと		小文字は、形だけでなく、文字を書く位置（基本線との関係）についても理解できるよう、外国語活動でアルファベットを学習する時から意識して、b d などは上に高い、g j などは下に伸びるイメージを、体を使って覚えられるように指導をすると効果的です。
手 順	①正しい位置に書かせる	適宜、視覚支援を行いながら、文字を 4 本線の正しい位置に正しく書くよう指導します。
	②語順への気付きを促す	いきなり、1 文を書かせるのではなく、語順への気付きを促す活動となるように、最初は、主語や動詞はなぞり書きをしたり、目的語はカードを貼ったりすることから始めます。
	③まとまりを意識させる	単語は 1 つのまとまりなるよう文字と文字を詰める、単語と単語の間は少し空ける、文頭は大文字、文末には“.”（ピリオド）“?”（クエスチョンマーク）等、文を書く時の注意点も指導します。
内 容	○書き写す ○書き溜めていく	聞いたり、話したりした内容について、書き写したり、語群から選んで書かせます。一度に大量に書くのではなく、単元を通して、一文ずつ書き溜めていくという指導も考えられます。

【参考：文部科学省作成「小学校外国語活動・外国語ガイドブック」】

— 単元・授業構成シートの作成手順 —

【単元・授業構想シートの作成について】

単元・授業構想シートの記入例は、『We Can !』及び『We Can ! (指導編)』を基に作成しています。使用する教科書と指導書を用いて、以下の作成手順を参考にしてください。

ステップ① 指導書で、単元の骨格を把握します。(例は『We Can ! (指導編)』です)

単元目標を確認し、児童に身に付けさせたい力を描きます。

単元で扱うキーセンテンスや主な単語を確認します。

この単元で学習する内容や指導上の留意点について確認します。



単元の指導の流れを大まかにつかみます。
また、その時間に児童に身に付けさせたい力と関連した活動についてイメージできるように内容を確認します。

各時間の詳しい指導方法については、次ページ以降で確認していきます。

【作成上の Q&A】

Q1：手順①はどの程度詳しく記入したらいいのですか。

A1：このシート作成の目的は、各時間の授業を、単元のゴールにつながる内容にすることです。詳細な指導内容を記入するよりも、各時間に押さえてほしいキーセンテンスや主な学習内容にポイントを絞って記入する方が毎時間のつながりが分かりやすくなります。

Q2：手順③の「目指す児童の姿」の意味がよく分かりません。

A2：単元のねらいに基づいた、その単元の終末で身に付けてほしい児童の姿のことです。「こんなやり取りをしてほしい」「こんな発表をしてほしい」というモデルを英語でイメージしてください。

ステップ② 単元・授業構成シートに落とし込みます。

【手順①】

指導書の該当ページを参照し、各時間の
・「本時のねらい」
・「児童に触れさせたい表現」
※キーセンテンスを参照
・「児童の主な学習活動」
を1時間目から順に記入していきます。

【手順②】

単元計画が全て記入できたら各時間の目標として取り上げる領域に○を記入します。
※その単元で評価する領域は●を記入します。

※資料1を参考にする設定しやすくなります。

単元・授業構成シート		教科書	Unit	ページ
(1) 単元計画				
本時のねらい	児童に触れさせたい表現	児童の主な学習活動(指導書の留意点)		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
(2) 各時間の目標として取り上げる領域(中括弧に○を記入し、本単元で評価する項目は●を記入)				
領域	第1時	第2時	第3時	第4時
L(聞くこと)				
S(話すこと)の意				
S(話すこと)の意				
R(読むこと)				
W(書くこと)				
(3) 単元の終末で目指す児童の姿				

点検

点検

【手順③】

単元終末で目指す児童の姿(単元のゴール)を具体的にイメージします。

(例)

- ・英語でのやり取りを書く
- ・英語で発表する内容を書く

【手順④】

- ①単元・授業構成シートが全て記入できたら、手順③→②→①の順で見直します。
- ②見直しができたら、必要に応じて加筆修正します。

<見直しの視点>

- 「単元終末で目指す児童のイメージ」、「目標として取り上げる領域」、「単元計画」につながりがあるか。
- 「単元終末で目指す児童のイメージ」につながる学習活動が組まれているか。
- 前の単元までに学習した(既習)表現や単語なども活用できる機会を積極的に取り入れているか。

単元・授業構成シート	教科書	We Can !2	Unit	5	ページ	
------------	-----	-----------	------	---	-----	--

(1) 単元計画

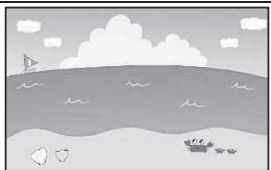
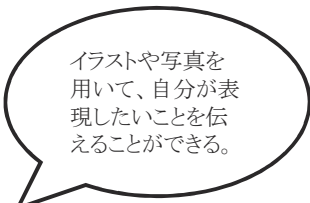
	本時のねらい	児童に触れさせたい表現	児童の主な学習活動(※指導上の留意点)
1	過去のことを表す表現に出会い、慣れ親しみ、言い慣れることができる。	my, it, sea, スポーツ、果物 野菜、飲食物、季節、動作 身の回りの物、状態、気持ち	指導者が言う語句を表す絵を指す。
2			ペア活動(仲良く→競争→指残し)
3	夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを聞いたり、選んだりすることができる。	I saw the blue sea . It was fun / exciting . I went to my grandparent's house . I enjoyed fishing. I ate ice cream.	おはじきゲーム、リズムに合わせて夏休みに行った場所を言う。
4			聞いた内容と該当する人物を線で結ぶ。 デジタル教材を視聴し、内容を書く。
5	デジタル教材を視聴して、登場人物がしたこと感じたことを聞いて、内容に合う絵を選ぶことができる。	Did you have a good time? He went to the sea.	音声を開かせる前に紙面にある絵の英語の復習をする。内容を予測して聞く。 < Sounds and Letters >
6	紙面の日記を読み、内容に合う絵を選ぶことができる。	I went to the sea. I enjoyed swimming. I ate fresh fish. It was fun.	デジタル教材を視聴したり、音声を聞いたりして、登場人物のしたことや、行った場所を線で結ぶ。
7	相手意識をもって、夏休みの思い出を伝えることができる。	I went to the department store. I enjoyed shopping. I ate banana chocolate ice cream. It was delicious.	①自分で読んでみる。②日記の内容を表したデジタル教材を視聴する。③デジタル教材に合わせて日記の英文を読む(言う)。④自分で読む。
8	Kazuの夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読むことができる。	I went to the sea. I enjoyed fishing. I ate pizza. It was delicious.	自分が過ごした夏休みの楽しさを伝える。※「自分もそのような夏休みを一緒に過ごしたい」と思ってもらえるように話すという目的意識をもたせる。
			絵本ページで紹介されているKazuの夏休みの思い出を自分の夏休みの思い出と重ねて読む。

※太字はその時間に必ず扱いたい表現

(2) 各時間の目標として取り上げる領域(※該当する項目に○を記入します。本単元で評価する項目は●を記入)

領域	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
L(聞くこと)	○	○		○	○			
S(話すこと)やり取り		○				○		
S(話すこと)発表			○				●	
R(読むこと)						○		○
W(書くこと)			○					

(3) 単元の終末でめざす児童のイメージ

 I went to the sea. It was fun.	 I enjoyed fishing. It was exciting.	 I ate seafood pizza. It was delicious.	
---	--	--	---

単元・授業構成シート	教科書		Unit		ページ	
------------	-----	--	------	--	-----	--

(1) 単元計画

1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

※太字はその時間に必ず扱いたい表現

(2) 各時間の目標として取り上げる領域(※該当する項目に○を記入します。本単元で評価する項目は●を記入)

領域	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
L(聞くこと)								
S(話すこと)やり取り								
S(話すこと)発表								
R(読むこと)								
W(書くこと)								

(3) 単元の終末でめざす児童のイメージ

--

〔Small Talk とは〕

児童が、①既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること、②対話の続け方を指導することをねらいとした 5・6 年生の活動です。5 年生では、インプットを中心に、指導者と児童のやり取りをします。（手順①）6 年生では、指導者と児童のやり取りをモデルとして、子ども同士のやり取りをさせ、活動の途中で、分からないことやできないことに対しての指導を行い、相手を変えて再度やり取りを行います。（手順①～④）2 時間に 1 回設定することが望ましいとされています。

〔手順〕

- ①教師と児童のやり取り
（話題の提供、初めの質問、反応や感想・関連質問など、6 年生では児童にモデルを示す。）
- ②児童と児童のやり取り
- ③指導
（児童のよい例を紹介し「使わせたい英語」を共有する。上手く言えなかった表現があれば全体で共有し、既習を手掛かりに解決案を考える。）
- ④児童と児童のやり取り
（相手を変えて複数回行う。）

〔対話続けるための基本的な表現例〕

対話の開始	対話を始めるあいさつ
繰り返し	相手の話した内容を繰り返す
一言感想	相手の話した内容について感想を言う
確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合、再度発話を促す
さらに質問	相手の話した内容について、さらに詳しく知るために、内容に関わる質問をする
対話の終了	対話の終わりの挨拶

〔指導例〕

テーマ：「好きな食べ物について」

<指導例①> 児童に対話続けるモデルを示す



I ate sukiyaki yesterday.
I like sukiyaki.
It's very nice.
What food do you like?

教師自身の事や感想などを伝え、話題を導入する

I like sushi.



Oh, you like sushi.
児童の発言を受けとめる
Me too.
反応する
I like tuna. How about tuna?
自分のことを言ってから質問する
（5W1H の質問など）

I like tuna.



You, too.
児童の発言を受けとめる
That's nice.
感想を言う

児童に対話続ける表現や工夫を示し、指導する。
その後、児童同士の Small Talk で使用させる。

<指導例②> 質問に答えられなかった児童への指導



I ate sukiyaki yesterday.
I like sukiyaki.
It's very nice.
What food do you like?

教師自身の事や感想などを伝え、話題を導入する

.....



What food do you like?
食べるジェスチャーをしながら尋ねる
Food, yakiniku, sushi...
具体例を挙げながら food が食べ物を
言っているのではないかと気付かせる。
I like yakiniku.
How about you?
Do you like yakiniku?
英語で答えるのが難しそうな児童には
Yes/No で答えられる質問をする。

Yes.



児童に会話ができたと成功体験を感じさせる



Oh, yes, you do. You like yakiniku.
児童の発言を受けとめる
That's nice. 感想を言う
Do I like yakiniku? Yes, I do.
I like yakiniku, too.
既習事項の I like を繰り返し聞かせ、
定着を図る
What food do you like?
別の児童に質問する

Classroom English 【40 選！】

No.4

活動での指示	始まり	1	4人グループを作りましょう。	Make groups of four.
		2	相手の方を向いて。	Face your partner.
		3	やってみたい人。	Who wants to try?
		4	やってくれる人はいませんか。	Any volunteers?
		5	あなたはどうですか。	How about you?
		6	話をやめましょう。	Please be quiet! / Don't talk.
	活動中	7	1から10まで数えましょう。	Let's count from one to ten.
		8	(もう少し) 練習しましょう。	Let's practice (a little more).
		9	友達(全員)に見せましょう。	Show it to your friends/the class.
		10	ワークシートに単語を書きましょう。	Write the word on your worksheet.
		11	(絵と登場人物を)線で結びましょう。	Draw a line (from the picture to the character).
		12	机を寄せましょう。	Put your desks together. / Turn your desks.
		13	次はだれですか。	Who's next?
		14	もう一度言ってください。	Pardon?
		15	ペアで話し合しましょう。	Talk in your pairs.
		16	席に戻ってください。	Please go back to your seat.
		17	私のまねをしてください。	Copy me.
		18	手を挙げてください。 手を下ろしてください。	Raise your hands. Put your hands down.
		19	あと1分です。	One more minute.
		20	拍手をしましょう。	(Let's give them a) big hands.
		21	聞こえますか。	Can you hear me?
		22	見えますか。	Can you see this?
		23	手を頭の上に置きましょう。	Put your hands on your head.
	終わり	24	終わりましたか。	Finished?
		25	片付けなさい。	Put your things away.
		26	終わります。今日はこれまでです。	It's time to stop. That's all for today.
つなぎ言葉		27	ちょっと待ってね。	Wait a minute. / Just a moment.
		28	それじゃあ…。では…。じゃあ…。ええと…。	Then ... / O.K.... / Well.../ Uhm.... / Let me see.
ほめ言葉		29	そのとおりです。/いいよ。	That's right. / All right. / That's O.K.
		30	よくできました。	Good job. / Great job. / Well done.
		31	すばらしいね！いいね！ 完璧だね！すごい！	Fantastic! / Perfect! / Excellent! / Wonderful! / Great! / Amazing!
励まし言葉		32	よくがんばったね！	Good try! / Good challenge! / Nice try!
		33	もう一度やって。できるよ。	Try again. You can do it.
		34	いいねえ。それでいいですよ！	I like it. That's good!
		35	あきらめないで。	Don't give up.
		36	惜しい！	Close! / Almost!
		37	がんばって！	Good luck! / Do your best.
		38	その調子！	Keep it up!
		39	はにかしがらないで。	Don't be shy.
		40	落ち着いて。焦らないで。	Take it easy. / Take your time.

外国語科の更なる充実に向けての参考資料

文部科学省

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

URL:https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm



MEXT channel動画資料の掲載

URL:https://www.youtube.com/results?search_query=%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%80%80%E5%A4%96%E5%9B%BD%E8%AA%9E



国立教育政策研究所

「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料

URL:https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf



独立行政法人教職員支援機構（NITS）

「オンライン講座」

新小学校学習指導要領における外国語活動及び、外国語科の指導の在り方の要点

URL:<https://www.nits.go.jp/materials/youryou/012.html>



兵庫県教育委員会

「小学校外国語教育指導用映像資料について」

URL:<https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/english/english.htm>



「Let's Enjoy English ～外国語科の授業づくりを楽しもう！～」
令和3年3月 発行

発行者 兵庫県立教育研修所 義務教育研修課
〒673-1421
兵庫県加東市山国2006-107
TEL : 0795 (42) 3102 FAX : 0795 (42) 5393